

栗野町報

第六號 大正十一年十二月二十五日 (日曜日)

庶務

○十一月二十五日ハ本町指定神社社口栗野神社新嘗祭ニ付午前十時供進使參進シ第一小學校教員生徒一般氏子參拜シテ祭神及ヒ式次、祝詞左ノ如シ

祭神

武甕槌命
大田心姫命
味稻高彦根命

○祭式

當日早且社殿ヲ裝飾ス
午前十時社掌以下所定ノ座ニ著ク
次 幣帛供進使參進(是ヨリ先手水ノ儀アリ)
次 幣帛供進使被祈ニ著ク

注意

栗野町長福田富士殿

甲野一郎 郎(印)

明治武拾七年正月廿日生

一、父方家族ナルトキハ肩書ニ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト父トノ續柄ヲ記載スヘシ

一、肩書ニ記載スベキ長二男女ノ區別ハ父母ガ戸主ナルトキハ戸主ヲ標準トシテ父母ガ共ニ家族ナルトキハ父ヲ標準トシテ定ムベク他家ニ於テ出生シタル子ハ家ヲ同フスルニ非ラサレバ續柄ニ付テハ其者ヲ輸入セザル様ニスベシ

一、長二男女ノ順序ニハ死亡者又ハ無名者モ加ヘテ定ムベク若シ双子ノ場合ハ出生ノ日時ノ順序ニ依ルヘキモノトス

一、届出ヲ爲スヘキ者ガ未生ナル場合ト雖モ自ラ届出ヲ爲シ得ベシ

荷積小車再啓印願

上都賀郡栗野町大字中興野十五番地
近藤 石 吉

一、荷積小車 壹輛

右ハ今船車体破損致候ニ付修繕仕リ候間再啓印被成下度舊檢印相添ヘ此段願上候也

大正十一年十一月八日

右

上都賀郡長青木浦次郎殿

近藤 石 吉(印)

次 修祓(先御幣物次幣帛供進使及隨員)

次 幣帛供進使所定ノ座ニ著ク

次 御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク(幣帛供進使隨員副ヲ)

次 社掌諸事辨備セル由ラ幣帛使ニ申ス

次 社掌御屏ヲ開キ畢リテ側ニ候ス

次 社掌祝詞ヲ奏ス

次 幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク

次 社掌御幣物ヲ奉ル

次 幣帛供進使祝詞ヲ奏ス

次 幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮(玉串ハ隨員之ヲ附ス)

大正十一年十二月二十五日印刷

大正十一年十二月三十日出版

栃木縣上都賀郡栗野町役場内

編輯兼 福田富士

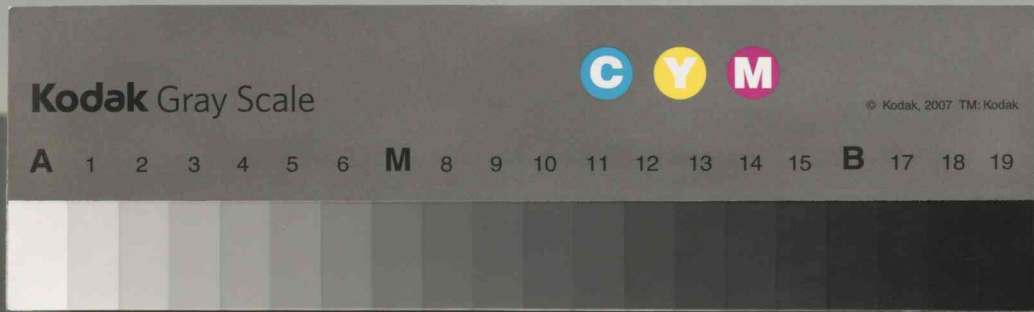
發行人 福田富士

印刷人 福田菊伊

栃木縣上都賀郡栗野町大字口栗野九壹貳番地

發行所 栃木縣上都賀郡

栗野町役場



栗野町報 第六號

次 幣出仕進使隨員拜禮
 次 社掌玉串ヲ奉リテ拜禮
 次 禰宜以下拜禮
 次 禰宜以下御幣物ヲ撤ス
 次 社掌御座ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス
 次 社掌祭饗畢レル由ヲ幣出使ニ申ス
 各退出

新嘗祭幣出供進使祝詞
 掛麻久母長俊口栗野神社乃大前栗野町長福田富士恐美
 恐美母白左今年乃新嘗祭爾術本縣上都賀郡栗野町與
 里獻奉留宇豆乃幣出平安幣出乃足幣出登平介久安介久開
 食志氏天都御食乃長御食乃遠御食豐明期明坐奉皇御
 孫命乃大御食平萬千秋乃長五百秋期平介久安介久開食
 左志米給比天皇命乃大朝廷乎始米氏天乃下乃國民爾至爾
 傳御遠爾禰廣爾五十稻八桑枝乃如久立祭奉志米給開登恐美
 恐美母白須

○十一月二十七日栗野町役場ニ於テ郡主催ニ係ル桑園
 基本調査員打合會ヲ開キ雨宮縣技手相澤郡技手出張
 一町四ヶ村委員ト調査ノ方法ニ付種々打合セ有タリ
 ○十一月二十八日午前十一時二十分大正十一年度第一
 回町是實行委員會ヲ役場樓上ニ開キ出席者左ノ如シ
 大山小六、片澤源治、鈴木定吉、神山伊重、増山平
 三郎、岩出善三郎、増山繁作、神山直治、小島豊治、
 楡木武雄、福田源一郎、湯澤新作、松本淺次、齋藤
 房吉、小曾戸兼吉、鈴木徳三郎、關本美保、樽見喜
 兵衛、齋原準三郎、福田富士、安發清作、淺野光一
 郎、廣瀬長市郎、谷津行三、谷中長一郎、神山知樹、
 福田重勝、小曾戸文一郎 計二十八名

當日附議事項
 一、消費節約ハ己ニ實行セラレ居ル向モ有リト信ズル
 モ舉國一致ノ實行ニ於テ其効果ノ最モ偉大ナルベ
 キハ勿論ノ義ニシテ戰時膨脹セル經濟ヲ個人ノニ
 自覺的ニ緊縮セシメ國民生活ノ安定ヲ得ントスル
 越旨ナルニ付急速其實績ヲ舉ゲラレント望ム
 二、消費節約ニ關シ施設實行スベキ必須事項左ノ如シ
 イ、時間ヲ尊重シ規律制ヲ重ズルコト

ロ、飲酒喫煙ヲ節シ宴會等ハ可成簡素ニスルコト
 ハ、冠婚葬祭ニ於ケル冗費ヲ節シ年未年始中元等
 ノ贈答ヲ節スルコト
 ニ、勤儉力行ノ美風ヲ作興シ貯蓄ヲ獎勵スルコト
 ホ、日用調度品ノ贅澤ニ涉ラサルコト
 ヘ、消費組合ノ普及發達ヲ期スルコト
 ト、出兵者ノ餞別贈答ヲ全廢スルコト
 三、消費節約調査委員ヲ選定シ本町ニ適應セル節約事
 項ヲ調査シ節約會ヲ興シ其ノ實行日ヲ左ノ通り定
 ムルコト
 イ、栗野町消費節約會
 ロ、節約日ハ毎月一日、十五日トス
 四、消費節約ノ趣旨ヲ周知徹底セシムル爲メ講演會活
 動寫眞ヲ隨時開催スルコト
 消費節約事項ノ印刷物ヲ配布スベキニ付毎戶其見
 易キ場所ニ貼リ置カル、コト
 △右ハ本町ニ適切ナルモノヲ簡拔シタルモノニシテ
 多少ノ議論有リタレド結局滿場一致ヲ以テ全部ヲ
 可決シタリ

○十二月二日民力漸養、消費節約講演會ヲ開キ本縣ヨ
 リ長澤社會教育主事藤席セラレ午後二時ヨリ栗野小
 學校講堂ニ於テ安發助役開會ノ辭ヲ述べ長澤主事ハ

「國民生活ノ合理化」ト題シ博覧ニ到ル迄講演シテリ
 聽講者二百名婦人傍聴者モ十數名見受ケタリ午後六
 時ヨリ活動寫眞會場ヲ横町ニ移シ熱心ナル説明アリ
 觀覽者一千八百名ニ達シ殆んど立錫ノ余地ナキ盛況
 ナリキ宣傳ノ趣旨ヲ一般ノ平易ニ徹底セシムルハ講
 演會殊ニ活動寫眞ニ若クモノナキヲ思ハシメタルハ
 澤主事ハ世界ニ於ケル戰前戰後ノ經濟狀態ヲ一々數
 字ヲ舉テ説明シ戰後ノ輸入超過ノ甚ダンク我國物價
 ノ高キハ是レガ爲メナルヲ論シ國民ヲ擧ゲテ大ニ勸
 勉セザルベカラザル所以ヲ述ベ我國ノ戰前ニ比シ二
 倍乃至四五倍ノ高キ物價ヲ低下セシムルハ國民勸勉
 ノ力ニ依リテ生産能率ヲ増進セザルベカラズ生産能
 率ノ増進ニ從ヒ物價ガ漸々下落スベキハ經濟學上ノ
 法則ナリト更ニ數字ヲ以テ我國ノ勸勉歐米各國ニ及
 バザルヲ示セリ

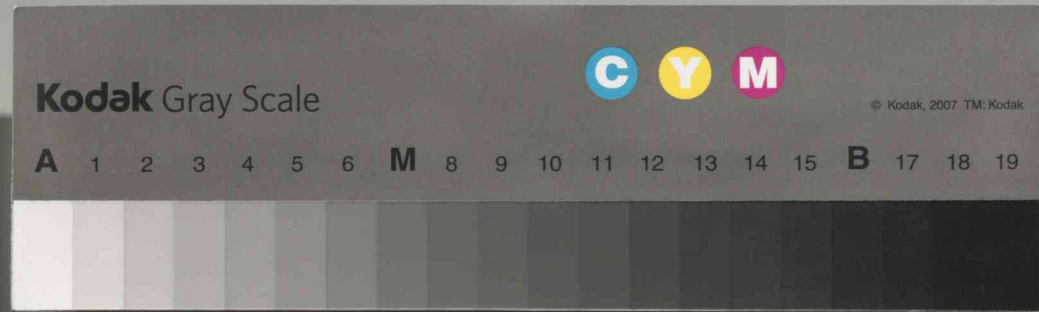
勸勉表

米國	二、〇〇	貯金デ邊ンデ喰ヘル日數
英國	一、三〇	七六九日
獨逸	一、五〇	三六五日
日本	〇、八〇	日本ヨリ多シ
		七一日

○桑園基本調査並ビニ一般統計ニ關スル講演會ハ病木

栗野町報 第六號





栗野町報 第六號

第二尋常高等小學校

學年	男	女	計	受持教員名
尋一	二二	一七	三八	榎木タマ
尋二	二六	二二	四八	大塚テヲ
尋三	一一	一一	二二	石崎忠雄
尋四	一六	一五	三一	松本勝太郎
尋五	一五	一〇	二六	金田魁三
尋六	一六	一〇	二六	

計	高	高	全	尋	尋	尋	尋	尋	學年
三二八	四七	二七	一四三	四一	四一	四一	四一	四一	計
二八二	一七	一七	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	計
六〇〇	六四	四四	四五	四五	四五	四五	四五	四五	計

受持教員名
 榎木武雄
 高橋源次郎
 金子昇一
 高橋源次郎
 神山清
 黒子マチ
 小杉秀雄
 野澤ヤス
 田口雅文
 高橋憲

第一尋常高等小學校

學年	男	女	計	受持教員名
尋一	二〇	二五	四五	落合義則
尋二	一六	二九	四五	青木テヲ
尋三	二〇	二四	四四	菊地フヂ
尋四	一六	二四	四〇	小林庄太郎
尋五	一六	二四	四〇	
尋六	一六	二四	四〇	

計	高	高	全	尋	尋	尋	尋	尋	學年
一一二	九七	一一二	二〇九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	計
一一二	六八	一一二	二二四	二二	二二	二二	二二	二二	計
二二四	一五五	二二四	四四九	四二	四二	四二	四二	四二	計

受持教員名
 榎木武雄
 高橋源次郎
 金子昇一
 高橋源次郎
 神山清
 黒子マチ
 小杉秀雄
 野澤ヤス
 田口雅文
 高橋憲

統計

農商務省統計様式第四 米 大正十一年度

縣主催トシテ十月九日午後一時栗野小學校講堂ニ於テ開會セリ講師トシテ農商務省隔托渡邊亥八氏栃木縣技手兩宮氏上都賀郡相澤養登技手出席セリ渡邊氏ハ時間尊重ノ觀念ヲ惹起スベシトテ正一時ヲ報ズルヤ直チニ演壇ノ人トナリ尋常五年以上高等科生徒補習科生徒ヲ入場セシメ一場ノ講演ヲ試ミラレタリ渡邊氏ハ北ハ樺太南ハ臺灣西ハ朝鮮ヨリ日本本土ノ津々浦々山村水郭ノ隈々迄足跡ヲ印セザルナキヲ以テ其見聞セル所其覺知セル所其觀察シタル所ヲ氏ガ透徹セル腦髓ノ篩ニ掛ケテ立証考証シテ古往今來人情風俗ノ變遷教育ノ發達古今治亂盛衰興亡ノ跡等微ニ入り細ヲ穿テテ説明シ且ツ批判ヲ加ヘラレ聞モ無ク四隣村ノ桑園基本調査員續々來着シタルヲ以テ本日ノ主題タル基本調査ノ趣旨ニ就テ本縣ガ卒先シテ本調査ヲ開始シタル所以ヲ力説シ桑園基本調査ハ桑園ノ國勢調査ナリト意義ノ最モ深キ所以ヲ高唱シ本邦人ハ統計思想、數量觀念幼稚ナリ隨テ統計ハ孟浪杜撰ナリト指彈シ大阪府ノ米ノ調査ト相待テ關ノ東西ノ雙壁ニ雙壁トシテ光リ有ラシムルハ諸君ノ努力ニ待タザルベカラズト説キ更ニ進ンデ牛馬豚羊ノ類迄調査ヲ行フベキ時期近キ將來ニ有ラザルベカ

ラザル所以ヲ繰述シタリ教員並ニ生徒ニ對シテハ『搖籃ノ教』ノ忽ニスベカラザルヲ説キ山ノ齋キハ人ニ依ルトノ西談ヲ引テ本調査ハ單リ調査員ノミナラズ所有者一般モ調査ノ趣旨方法等ヲ知悉セザルベカラズト結ビタルハ千鈞ノ重キヲ加ヘ二時間余ノ演說聽講者ニ徹底の會得ヲ與ヘタリ次ニ兩宮技手相澤技手ハ調査員ト懇談的ニ一問一答シ能ク調査ノ方法手續等ヲ了解セシメタリ

學事

本町立各小學校學級並兒童數及ビ受持教員氏名ハ左表ノ如シ

大正十一年十二月十五日調



栗野町報 第六號

町村名	賦課額	納入額	未納額	平均
加蘇村	一五、二一〇	一五、二一〇	〇	一、〇〇〇
南摩村	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
永野村	四七、〇〇〇	四七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
清洲村	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
真名子村	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
南押原村	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
北大飼村	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
合 計	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇

大正十一年度第二期所得稅附加稅收入歩合調

七

栗野町報 第六號

町村名	賦課額	納入額	未納額	平均
加蘇村	一五、二一〇	一五、二一〇	〇	一、〇〇〇
南摩村	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
永野村	四七、〇〇〇	四七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
清洲村	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
真名子村	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
南押原村	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
北大飼村	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
合 計	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇	一、〇〇〇

大正十一年度后期國稅營業稅附加稅收入歩合調

六



栗野町報 第六號

○十二月七日ヨリ本町大字入栗野賀蘇山神社々殿内ニ
開會シタル本部主催ノ大日本青年會上都賀郡幹部講
習會ハ九日終了シタルヲ以テ翌十日午前十時卒業証
書授與式ヲ舉ゲタリ東京總本部ヨリ事務總長落合寅
平氏(元會津中學校長)來着一場ノ訓話ヲ爲シ青木
那長代理中村郡親學ノ式辭ニ次デ山中講師ノ挨拶ア
リ來賓第二校長楡木武雄氏ノ祝辭尋常小學校長渡邊
眞次郎氏ノ祝辭賀蘇山神社々司横瀨武三郎氏ノ祝辭
卒業生總代和賀井芳雄氏ノ答辭有リテ全十二時閉會
トシテ廣瀨書記出席シ希望ヲ述ベタリ(別項參照)
卒業生氏名左ノ如シ

南摩村 青木末吉、矢口正次、青柳清次、御地合晋、
栗野町報 第六號

◆彙報

栗野町會議長 福田富士
署名委員 關本美保
全 松本淺次
全 福田七右衛門
(可會書記廣瀨)

三番曰 讓受クナイ場合ハドウナリマスカ

土揚場水道墓地火葬場稻干場獸畜理場ノ如キモノハ
國有財産中ノ第四ノ雜種財産トナリ大藏大臣ノ主管
ニ移ルコトニナルノデアリマス雜種財産トナルベキ
之等ノ土地デ從來公共ノ用ニ供シ公共團體ニ於テ維
持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止
シタル場合ハ官有地特別處分規則第三條ニ依リマシ
テ之ヲ其修繕保存費負擔者タル地方公共團體ニ讓與
スルト云フコトニナルノデアリマス之レヲ簡單ニ申
シマスト從來內務省ノ主管デ官有ニ屬セシ土揚場溜
池水路ト云フ之等ノ土地ハ國有ヨリ離權シテ町村ノ
所有ニ飯屬セシメ爾後ハ町村ノ營造物トシテ財源ノ
一助ニスルト云フ趣旨ナノデアリマス故ニ其筋ヨリ
該當土地ガ有ツタナラバ夫々調査ヲシテ至急提出セ
ヨトノ通牒ガアリマシタカラ本町ニ備付ノ明治九年
ノ地圖其他ハ實地調査ヲ作製致シマシタ別紙調
書記載ノ通り大字口栗野ニ二十四反十一歩六合五
勺百七十一筆大字粕木ニ四反二十六步二十四筆大字
入栗野ニ四町二反九畝六步五合六十七筆アルノデア
リマス以上ノ土地ハ從來本町ニ於テ維持保存ノ費用
ヲ負擔シテ居ルノデアリマスカラ一旦公共用ヲ廢止
シテ下付ヲ受ケタル上更ニ營造物トシテ保存シ財源ノ
一端ニ致シタイ考デ本案ヲ提出シタノデアリマスカ
ラ宜シク御審議ヲ願ヘマス

參與員曰 讓受クガ出來無クナリマス
二番曰 現ニ契約中ノモノハ或ハ契約解除ノモノアリヤ
參與員曰 契約中ノモノハ權利附帶ノ儘下付ニナリマ
九番曰 落チハ有リマセンカ
參與員曰 明治九年ノ地圖デ調べ尙實地調査シタ箇所
モアリマス辨天沼ノ如キ其一例デス
九番曰 御説ニ依リ大體本議案ハ分リマシタカラ尙落
ノ無イ様ニ調査ヲ遂ゲラレシムコトヲ原案者ニ
御願シ議會省署可決ヲ望ミマス
各員贊成

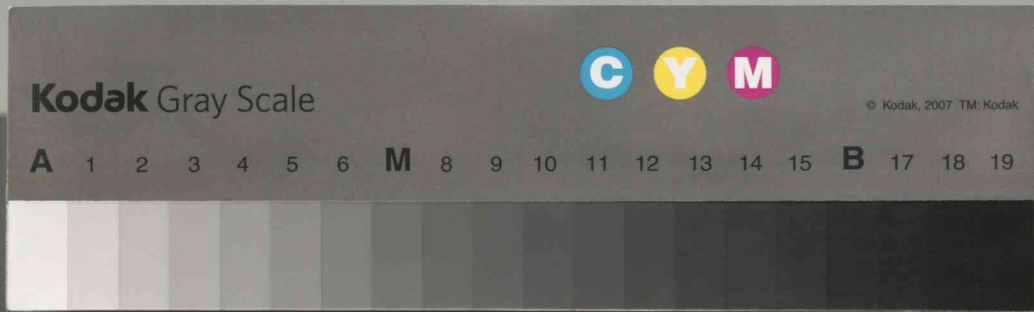
議長曰 本案ハ最モ慎重ニ調査ヲ致シタルモノデアリ
マス尙尙念ニハ念ヲ入レテ若シ落チガ有リ
タル場合ハ追加致シマスカラ御承認ヲ願ヒマ
ス本案ハ議會省署可決確定致シマス御異議有
リマセンカ
各員異議ナシト呼ブ

議長曰 本案ハ確定議ト爲リマシタ署名委員ヲ指名シ
關本美保君
松本淺次君
福田七右衛門君

町長曰 閉會致シマス
右會議ノ顛末ヲ録シ相違ナキヲ証スル爲メ署名候也
大正十一年三月十五日

栗野町 青年聯盟の歌
一、四方にかがやく日の本の
榮むある國の若人は
朝日に匂ふ櫻花
御國の爲めに散らんかな
赤き血潮のおどるとよ
國家の安危にのふ身の
任務は重しアジア洲
三、ア、起て奮へ我が同志

永野村 駒場祥雄、田邊利一、田邊松吉、駒場末吉、
渡邊三郎、齋藤進一郎、茅原榮三郎、若泉重
一、池澤光吉、大川兼吉、森澤茂三郎、大森
宗作、大森臣、越路兵衛、廣田善次、
西方村 中田忠治、和賀井芳雄、
清洲村 黒川仁助、生出新太郎、和賀井善次、
粕尾村 金井武一、金子利、若林新一、小林朝之進、
鈴木喜計、原田吉五郎、根本勝一郎、金子孝
作、
栗野町 神山克雄、大橋要松、大橋基一郎、齋藤福松、
熊倉清志、神山幸一、



栗野町報 第六號

君の節柄にかゝる身を
來れ吾等の誠のよも
つなぐ青年聯盟に
四、眠る民草ゆも起し
固き握手に通ふ血は
國につながらる眞純の
國土の意氣を見よや人

○鳥鬼勿々歳云ニ暮ル回顧スレバ本年ハ最も多事ニア
リキ今茲ニ重ナル事件ヲ列記スレバ左ノ如シ
○第一、第二小學校々々舎ノ建築並ニ落成式
○征矢名譽助役ノ死亡
○國有土地水面町有移管
○改正戸數割ノ施行
○郡道擴張(入粟野入口中町角)
○八月二十三日、二十四日ノ暴風雨大被害
○陸軍地方馬検査
○鐵道運入問題
○賀蘇山神社昇格ノ件
○民力涵養講演會、活寫寫真ノ開催
○桑園基本調査
○町有林根本調査

○財團法人生活改善同盟會ヨリ左記ノ通り通牒有リタ
リ
一、年賀状及回禮ハ親近者間ニ止マルヤウニシタイ
ニシタイ
二、年賀状ハ形式ニ偏セズ簡便デ誠意ヲ籠メタモノ
ニシタイ
三、年末年始ニ際シテハ宴會ヲ可成廢シタイ
四、特ニ招待シタ場合ノ外ハ年賀ノ客ニ酒食ヲ出サ
ヌ様ニシタイ
五、歳暮年玉ハ可成之ヲ畧シ特ニ形式一通ノ贈答品
交換ハ絕對ニ廢シタイ
六、贈答ノ場合ハ實質ヲ旨トシ外形上ノ虚飾ヲ廢ス
ル様ニシタイ
七、年始ノ回禮ハ成ルベク三ケ日以内ニ限リタイ
八、年始ノ挨拶ヲ親シク交換スル機會アル場合ハ年
賀状及回禮ヲ省畧スル様ニシタイ

○町有土揚場測量
○町有墓地整理中

○鹿沼警察署及ビ栗野町消防組頭ヨリ通牒ノ次第モ有
リ目下一齊ニ防火警戒ヲ要スル時期ナルヲ以テ各戸
ノ自衛心ヲ喚起スル爲メ消防組、栗野町役場、青年
會、軍人分會聯合ノ下ニ大ボスターヲ數十枚各大字
ニ配付シ左記ノ通り執行ノ筈
追テ十九日ノ執行ノ模様ヲ記サンニ午後八時ヨリ
防火宣傳ト朱書セル大提灯、大行燈ヲ十數個中天
ニ挿テ隊伍ヲ組ミ歩武堂々青年團音樂隊ヲ先導ト
シテ防火宣傳ノ歌ヲ高唱シ大字口栗野字空場ヨリ
中町通リヲ經テ大字柏木ニ到リ引返シテ横町通リニ
出デ中妻、梅木原ヲ經テ大字中栗野字板名界ニ到リ
テ引飯シ栗野町役場庭内ニ於テ解散ス第一日所期
ノ如ク嚴肅禮ニ而カモ壯快ノ情ヲ以テ執行シ得タ
リ (二十日午前十時記)

記
一、十二月十九日午前八時正午迄 第一部内
一、 全日自午後一時 第二部内
一、 全日自午前九時 第六部内
一、全 二十日自午前九時 第九部内

九、外松カガザリノ類ハ可成質素ニシタイ
十、春着ハ成ルルケ有合品ニテ間ニ合ヌヤウニシタ
イ

○栗野町地主會ハ大正十一年度小作米給與額ニ關シ十
二月二十日理事會ヲ開キ左記ノ通り決議シタリ
小作米品評會審査成績ノ結果輸出等級ニ依リ(納
米一俵ニ付)
等 級
一 等 米 金一圓五十錢
二 等 米 金一圓
三 等 米 金五十錢
四 等 米 金二十五錢

○長澤主事ガ講演中虚禮虚式廢止ノ項ヨリ説キ進ンデ
日本人ガ訪問ニ方テ冗言ヲ先キニシ肝心ノ用件ヲ後
ニシ飯リ際ニチンビリ話ヲ許シテ「蟬訪問」トハ
洒落タリ多ク鳴ラ飛ビ去ル時ニ一寸時雨スレバナリ

栗野町報 第六號



栗野野報 第六號

一四

時間確守ノ項ニ於テ日本人ハ午禮ト云ヘバ直ク起ツ
 晝飯ニ對シテ而已時間正確ナリト戲ムレ或ル町村デ
 葬式出棺ガ午後正二時ノ通知デナカシ時間ニ出ズ
 其故ヲ問ヘバオ坊サン來ラズト茲ニ於テオ坊サンノ
 時間不正確、オ坊サン來テモ經テ讀マズ何故ゾト聞
 ケバ親戚ノ方ガ見ヘスト茲ニ於テ御經ノ時間不正確
 (寄託ノ妙ヲ見ヨ)ハ笑ハセタリ是レハ何レノ町村デ
 モ實際困ル問題ナレバ改善サレタシ寸鐵殺人ノ
 諷刺骨ニ秘セリ

○別項掲載ノ亥山先生開口一番予ハ和賀井校長ト小學
 校時代ニ同窓ナリト生徒ノ親ミヲ引キ忽チ白墨ヲ執
 テ黑板ニ琉球風俗畫ヲ物ス一抹黒髮筆下否乎墨下ニ
 成リ一線亦一線一点更ニ一畫曲線ノ配合宜シキヲ得
 テ竊窺タル美人成ル而カモ省筆ノ妙ヲ極ム記者ハ雪
 舟ト懐月堂トヲ懷ヘリ一ハ下ゲ髪ノ少女他ハ螺頭ニ
 挿メリ説明シテ曰ク鬼ノ角ニ非ズ銀ナリト生徒ノ喜
 ビ笑フコト一方ナラズ小ナル群集心理ハ我ニ結ビ附
 ケラレタリ是ヨリ天地四方ニ逍遙スベキコト寒村ノ
 蠶居ハ井蛙ノ管見ニ墮スルコト等ヲ論ジテ地理ニ及
 ビ茨城縣ノ小學校地理展覽會ヲ見タルコトヲ述ベテ
 其所在ヲ太田ノ在ナリト西山公カラ助サン格サン

テ頂キタイ、昔シ唐ノ時代ニ齋巳ト云フ詩僧ガ有テ
 早梅ト云フ詩ノ題ヲ得テ『前村深雪裡、昨夜數枝開』
 ト對句ヲ造リマシテ、之ヲ鄭谷ニ見セマスト、谷
 ノ曰ク、數枝開クデハ早梅ノ意ニ適ハス宜シク、枝
 開クト訂正スベキアルト謂ハレマシタ、ソコデ、
 齊巳ハ覺エズ五休ヲ地ニ投ジ君ハ實ニ一字ノ師ナリ
 ト拜謝シタト云フコトガ鶴林玉露ニ載テ在リマス、
 夫レカラ御承知ヲ如ク能澤壽山ガ陽明學者、中江藤
 樹ノ門下生タラントシテ許サレズ、其門外ニ眠ツタ
 ノモ三日デアリマス、更ニ二祖惡可大師ガ嵩山ニ達
 磨大師ヲ訪ツレテ雪中ニ立チ盡クシタモ三日三夜デ
 アリマス、修証義ナドニハ落ツル涙モ滴々凍ルト形
 容サレテ有リマス、古人ガ道ヲ求ムル爲メニハ個様
 ニ苦心懺悔サレタモノデアリマス、然ルニ今諸君ハ
 此ノ大伽藍ノ裡ニ在リテ、熱心ナル講師先生ノ温キ
 抱擁ノ下ニ三日ノ會期ヲ終ラレタト云フコトハ大ニ
 祝福スベキコトデアリマス、一字ノ師デスラ五休ヲ
 地ニ伏シテ拜謝シタ故事ガアリマス、況ンヤ三日ノ
 間講習會得サレタコトハ諸君ノオ心一ツデ永遠ニ赫
 然タル光輝ヲ放ツコト、確信致シマス、ソコデ一ツ
 諸君ニ御注文致シタイノハ、學シダコトヲ其儘ニ腦

迄飛ビ出ス下野新聞講談ニ御馴染ノコト、テ兒童手
 ヲ拍テ嗜シタル更ニ蘆谷郡ノ一生徒ガ先日山脇知事
 巡視ノ際一番傑イ人ハ誰ガト御問有リタルトキ尋常
 五年ノ一生徒ガ大キク成ツツハ、天皇陛下ニ忠義ヲ
 盡シ家ニ在テハ親ニ孝行ヲ盡クス人ト答ヘ知事ニ賞
 メラレタル話ヲ其所ノ學校長ニ聞ケリトテ引証シ近
 時思想ノ動搖ヲ嘆ズル等大人ハ新ラシキ『人國記』ヲ
 讀ムノ感有リ兒童ハ第二ノ小波山人ナリトテ盛ニ
 拍手喝采堂ヲ撼カシ諸誠裡ニ眞面目ヲ藏セル才人往
 ク所トシテ可ナラザルナキヲ思ハシムルト同時ニ本
 紙ニ先ダチ附録ノオトギ嘶教話ニ一時間餘ノ舌耕ヲ
 費ヤサレタルハ痛ミ入ルノ外無シ矣

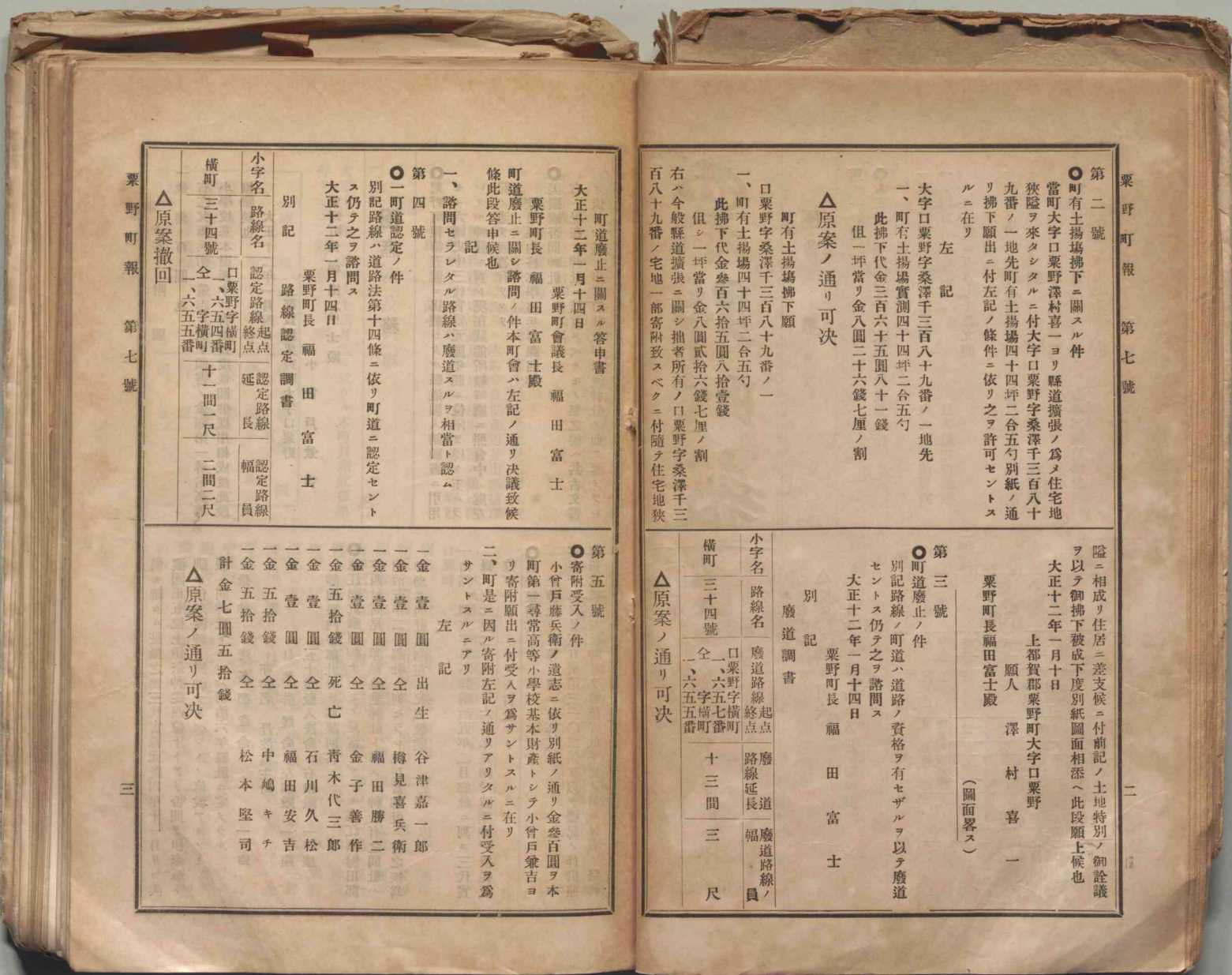
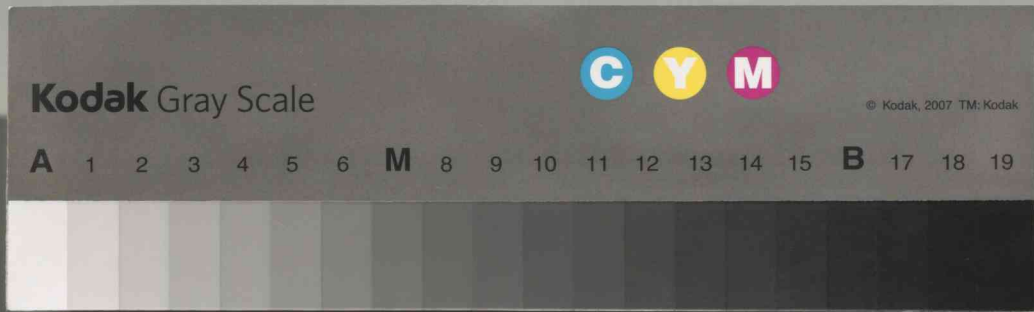
○本日ハ福田町長臨席スベキデ有リマスガ、目下縣會
 開會中デアリ、安發助役ハ、重要ナル用務ノ爲メニ
 出席ノ叶ハスコトハ誠ニ遺憾ノ次第デアリ、不肖私
 ガ(廣瀨)代テ諸君ト相見エルノ機會ヲ得マシタノハ深
 ク光榮トスル所デアリマス、抑々、今回ノ講習タル
 ヤ、會期僅カニ三日デアリマスガ、私ハ其効果並ニ
 意義ヨリ見マシテ決シテ短カイト輕ンズベキデ無
 イト思フ、此レニ就テ聊カ卑見ヲ述ブルコトヲ許シ

栗野町報 第六號

一五

理ニ仕舞裁カズ、充分ニ活用實行サレタイノデアリ
 マス、口、火ト云フモ燒ケス、水ト云フモ漏レザルノ
 道理デアリマスカラ實行ガ肝要デアリマス、尙此ノ
 事ニ就テ蛇足ノ辯ヲ添ヘマス、古語ヲ案ズルニ簡ノ
 元字脚ヲ記シテ心ニ置ケバト云フコトガアリマス、
 元字脚ハ古來種々ノ議論ガ有ツテ未ダ解決サレラ居
 リマセンガ、私ハ天籟ノ解說ニ從ヒマシテ、天皇モ別
 ニ聖賢無シ唯凡情ヲ盡クセト云フテ居ルコトガ私ノ
 意ヲ得テ居リマス、凡情ハ修養ノ粹ヲ以テ白キ崩サ
 ネバナリマセン、是レハ有名ナ百丈ト云フ人ノ語シ
 デ百丈ハ唯一字ノ遠デ五百年ノ間野狐身ニ墮シタモ
 ノデアリマス、夫レハ不落因果ト謂ヘマシタ爲メデ
 アリマス、後ニ不昧因果ト轉身一語ヲ取テラレタ
 ノデ野狐身ヲ脱シマシタ、今私ハ二字ヲ取テ換テ諸
 君ニ不落懶惰ヲ勸メシタイノデアリマス、學シダ
 期間ハ一尺ノ水ノ因、此レカラ先キノ活用ハ一丈ノ
 波ノ果デアリマス、諸君ハ不斷ノ努力ヲ以テ凡情ヲ
 盡クシ、今日ノ講習ヲシテ最も有意義ノ光輝アル美
 果ヲ收メラレンコトヲ希望シテ止マナイノデアリマ
 ス、終リニ臨テ講師先生始メ會員諸君ノ御健康ヲ祈
 リマス。云々





栗野町報 第七號

栗野町報 第七號

町道廢止ニ關スル答申書
大正十二年一月十四日
栗野町會議長 福田 富士

町道廢止ニ關シ諮問ノ件本町會ハ左記ノ通り決議致候條此段答申候也

一、諮問セラレタル路線ハ廢道スルヲ相當ト認ム

第四號

○一町道認定ノ件
別記路線ハ道路法第十四條ニ依リ町道ニ認定セントス仍テ之ヲ諮問ス
大正十二年一月十四日
栗野町長 福田 富士

別記	路線認定調書	認定路線	認定路線員
横町 三十四號	口栗野字横町 六五四番	延長	幅員
全	六五五番	十一間一尺	二間二尺

△原案撤回

第二號

○町有土揚場拂下ニ關スル件
當町大字口栗野澤村喜一ヨリ縣道擴張ノ爲メ住宅地狹隘ヲ來タシタルニ付大字口栗野字桑澤千三百八十九番ノ一地主先町有土揚場四十四坪二合五勺別紙ノ通り拂下願出ニ付左記ノ條件ニ依リ之ヲ許可セントスルニ在リ

左記
大字口栗野字桑澤千三百八十九番ノ一地主先
一、町有土揚場實潤四十四坪二合五勺
此拂下代金三百六十五圓八十一錢
但一坪當リ金八圓二十六錢七厘ノ割

△原案ノ通り可決

町有土揚場拂下願
口栗野字桑澤千三百八十九番ノ一
一、町有土揚場四十四坪二合五勺
此拂下代金三百六十五圓八十一錢
但一坪當リ金八圓二十六錢七厘ノ割

右ハ今般縣道擴張ニ關シ拙者所有ノ口栗野字桑澤千三百八十九番ノ宅地一部寄附致スベクニ付隨テ住宅地狹

第五號

○寄附受入ノ件
小曾戸藤兵衛ノ遺志ニ依リ別紙ノ通り金參百圓ヲ本町第一尋常高等小學校基本財産トシテ小曾戸兼吉ヨリ寄附願出ニ付受入ヲ爲サントスルニ在リ
二、町是ニ因ル寄附左記ノ通りアリタルニ付受入ヲ爲サントスルニ在リ

別記	寄附調書	寄附者
金 壹圓	出生	谷津嘉一郎
金 壹圓	全	梅見喜兵衛
金 壹圓	全	福田勝二
金 壹圓	全	金子善作
金 壹圓	死亡	青木代三郎
金 壹圓	全	石川久松
金 壹圓	全	福田安吉
金 壹圓	全	中嶋キチ
金 壹圓	全	松本堅一司
計	金七圓五拾錢	

△原案ノ通り可決

第三號

○町道廢止ノ件
別記路線ノ町道ハ道路ノ資格ヲ有セザルヲ以テ廢道セントス仍テ之ヲ諮問ス
大正十二年一月十四日
栗野町長 福田 富士

別記	廢道調書	廢道路線員
横町 三十四號	廢道路線終點	廢道路線員
全	六五七番	廢道路線員
六五五番	十三間	三
		尺

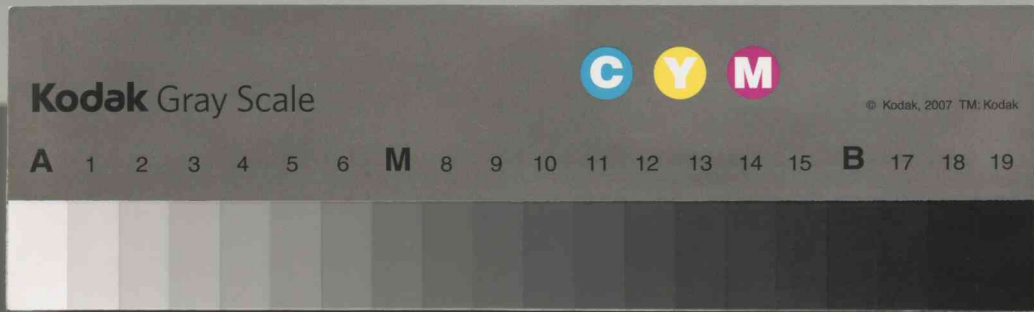
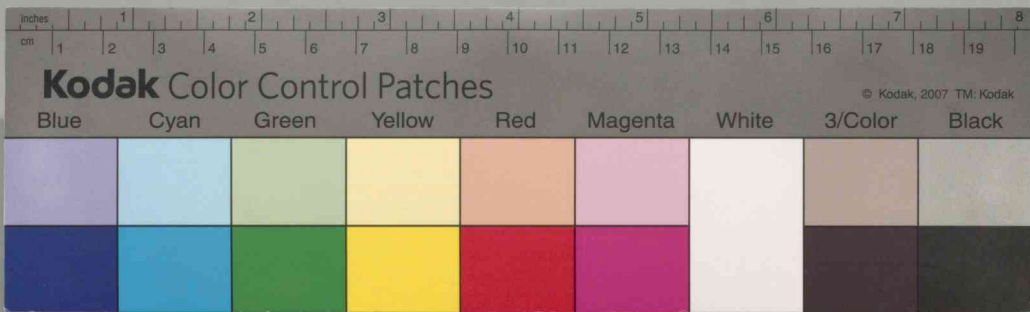
△原案ノ通り可決

廢道調書
廢道路線終點
廢道路線員

廢道調書
廢道路線終點
廢道路線員

廢道調書
廢道路線終點
廢道路線員





栗野町報 第七號

寄附願

一金 參百圓也

右亡父藤兵衛ノ遺志ニ依リ頭書ノ金額第一尋常高等小學校基本財産中ニ寄附致度候間御採用相成度此段相願候也

大正十二年一月四日

上都賀郡栗野町大字口栗野 小曾 戸 兼 吉

大栗野町長 福田 富士殿

庶務

栗野町報第五號ニ掲載シタル縣道編入請願書ニ引用セル六國史中三代實錄元慶年間ニ位階ヲ授ケ玉ハラレタル神社ニ對シ現在狀態所轄時廳ニ照會中ノ處左記ノ通り回答有リタリ

岐阜縣内務部學務兵事課回答

美濃國吾間神社

右ハ現在ノ神社ニ該當スベキモノ無之候ヘ共古文書ニ依レバ岐阜 市櫻町縣社伊奈波神社ノ如ク認メラレ

由緒附記候條御承知相成度此段及回答候也

北佐久郡芦田村郷社琴科神社 里 二 座

一 祭神 高皇產靈尊

一 由緒 創立年月不詳本村ノ産土神ニテ元慶二年九月從五位下ヲ授ラレ本村及當郡茂田井山郡津澤桐原藤澤宇山牛鹿八ヶ村ノ總社ト稱シ舊小諸藩崇敬ノ社ヨリ明治六年本縣第拾參區ノ郷社ニ列ス 云々

戸籍及兵事

大正十一年一月ヨリ十二月迄ニ於ケル本町戸籍取扱事件ヲ示サバ左ノ如シ

種別	件數	種類	件數
出生	二〇六	家	一六
死亡	一〇二	家	一〇
婚姻	一八四	家	二
養子縁組	一一	訂	一
養子離縁	三	後	一

口栗野

大正十二年徴兵適齡者氏名

廣田 恒次	渡邊 沖三	相崎 春吉	山中 利平
福田 清吉	黒川喜和次	黒川 仁作	落合 要平
關本重一郎	關本 仙吉	小嶋 喜平	大貫 徳平
吉澤三代吉	加藤 三四	大櫛 幸吉	下嶋 正一
青木 喜一	松本喜太郎	大出亥三己	福田 妙輪
野原 四一	安野卯四一	大森 弘	阿部 與吉
横尾 武次	關本 萬吉	中塚 東	青木伊三郎
神山 清	小林 福次	大森與會吉	赤塚 圭
早乙女英造	岡本久次郎		
中栗野			
神山 豊	神山 茂登	岩出 要	鈴木 吉次
齋藤 一雄	川津 三郎	湯澤音一郎	大串誠太郎
福田 祐作			

親族入籍

家督相續

隱居

戸籍附抄

本交付

戸籍證明

戸籍閲覧

五三三

七

一〇

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

四六

四七

四八

四九

五〇

五一

五二

五三

五四

五五

五六

五七

五八

五九

六〇

六二

六三

六四

六五

六六

六七

六八

六九

七〇

七一

七二

七三

七四

七五

七六

七七

七八

七九

八〇

八一

八二

八三

八四

八五

八六

八七

八八

八九

九〇

九一

九二

九三

九四

九五

九六

九七

九八

九九

一〇〇

候モ確タル証無之候三代實錄元慶四年十一月九日美濃國正五位上伊奈神從四位下トアリ否間ヲ伊奈麻ト訓テ伊奈波神ト同神ナルベシトノ傳説アルノミ假ニ同神社トスレバ明治六年縣社ニ定メラル

祭神 彦多都彦命 一 座

亦御名 丹波道主命

日葉酢媛命 左相殿 一 座

五十瓊敷入彦命 右相殿 一 座

靜岡縣内務部社寺兵務課回答

遠江國眞蘇原神ナルモノ見當ラザルモ遠江國磐田郡笠西村高尾ニ赤尾瀧垂神社ト稱スル神社有之同社ハ明治五年二月郷社ニ列セラレ現在當郷社ニ有之候爲御參考同社由緒左ニ記載致候

記

一 由緒 創立年月不詳明治五年二月郷社ニ列ス三代實錄ニハ元慶二年九月十六日赤尾神、瀧垂神、授從五位下云々 トアル古社ナリ

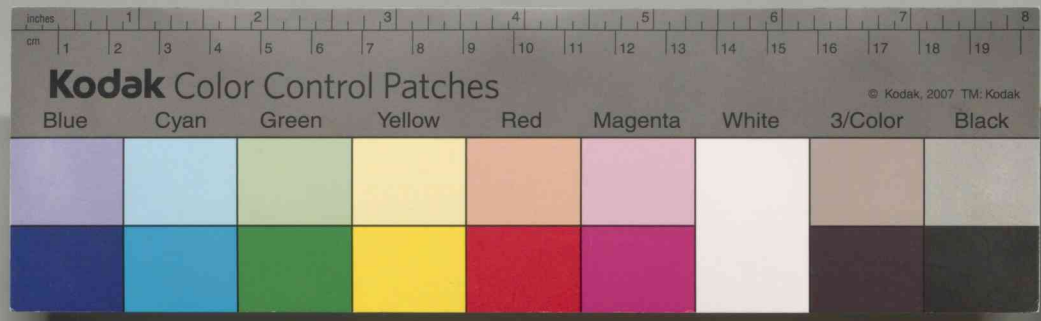
○長野縣回答

神社々格等ニ關スル件

客年十二月廿三日業第三一〇二號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處左記神社ヲ當該神社ト認メ候ニ付右ノ祭神

栗野町報 第七號





栗野町報 第七號

栗野町報 第七號

全町大字中栗野字菅沼

一、郡道栗野入栗野線 橋梁工事
全町大字入栗野字宮内

一、郡道栗野入栗野線 水抜工事
全町大字中栗野字茸澤口

栗野川通左岸

一、護岸工事 長 三十三間
全栗野川通り右岸字岩下

一、護岸工事 長 三十五間
全栗野川通り右岸字追地

一、護岸工事 長 五十五間

財務

◎大正十一年度田租第一期分ハ金六百八十三圓八十六錢此納税人員三百五十八人ニシテ本月十七日ヲ以テ完納セリ

◎本月二十七日限リ納付スヘキ納税ハ所得税第三期分及宅地租第二期分ニシテ所得税ハ金二千六百三十九圓十二錢全縣稅附加稅金百六十圓四十二錢全町稅附

岩井與作 六、岩出安
湯澤玉一郎 六、岩出清次郎
青木林次郎 六、岩出啓三郎
神山幸七 六、松本庚次
河野重太 六、岩出眞作
川津千代吉 六、岩出儀重郎
川津本彌 菅沼小組合
湯澤隆助 計金參拾七圓六拾參錢
神山順作 七、湯澤萬吉
湯澤貞四郎 二、湯澤壽一郎
板名組合 一、岩出儀三郎
計金四拾八圓貳拾四錢
五、岩出善一郎
四、岩出竹三郎
七、岩出春吉
一、岩出哲太郎
二、岩出儀三郎

計金參拾圓六拾九錢
大栗小組合
計金參拾圓六拾九錢
合計金四百五拾五圓貳拾參錢
人員壹百〇貳名

△以上ハ大正四年以降轉作反別ニ反歩ニ付金壹圓ノ割ニテ積立貯金ヲ爲シ大正十一年ヨリ反當リ金四圓ノ割ニ積立金ヲ變更増加シ組合員中有無相通シ肥料買

地理及土木

〇栗野町有租地集計表 (大正十一年書現在)

地目	區分	反別	坪數	地價	地租	筆數
田		一、七、九、〇、三	六、九四九、九〇	二、七四三、九七〇	二、四九	
畑		一、九、七、〇、四	二、五、三、四、三〇	一、一、五、一、〇、五	二、六、三	
池沼		一、九、七、〇、四	二、五、三、四、三〇	一、一、五、一、〇、五	二、六、三	
山林		一、九、七、〇、四	二、五、三、四、三〇	一、一、五、一、〇、五	二、六、三	
原野		一、九、七、〇、四	二、五、三、四、三〇	一、一、五、一、〇、五	二、六、三	
雜地		一、九、七、〇、四	二、五、三、四、三〇	一、一、五、一、〇、五	二、六、三	
宅地		一、九、七、〇、四	二、五、三、四、三〇	一、一、五、一、〇、五	二、六、三	

〇自大正十二年一月 住民請負及隨意契約工事左ノ如シ
至大正十二年二月

栗野町大字口栗野字中栗

一、郡道栗野入栗野線 橋梁工事
全町大字中栗野字板名

一、郡道栗野入栗野線 橋梁工事

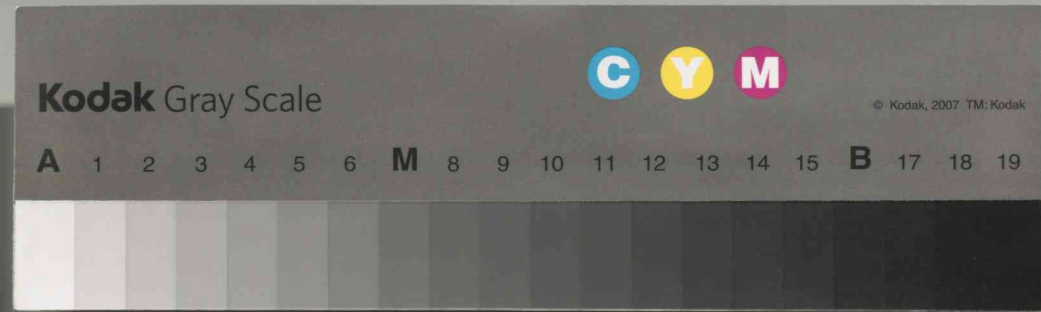
加税三百五十四圓六錢納税人員百十九人ナリ
宅地租金四百三十一圓十四錢ニシテ納税人員五百五十六人ナリ

◎尙本月ハ客年十月十一月ノ兩月ニ亘ル不動産取得稅徵收期ナリ其ノ登記價格總計ヲ示サバ金一萬五千五百三十七圓八十六錢ナリ(登記件數十七件)此稅額縣稅金百八十六圓三十九錢町稅金百四十九圓九錢ヲ徵收ス納税人員二十八人ナリ

◎來ル二月徵收スベキ稅金ハ田租第二期ニシテ指定期限ハ全月二十五日ナリ

◎營業名及課稅標準申告ニ關スル注意
納稅義務アル營業者ハ其ノ申告書ヲ本月底限リ當役場へ提出スベシ本年四月ハ營業稅調査委員及全補欠員ノ改選期ニシテ之レガ選舉被選舉權ハ法定期限内ニ申告ヲナラズモ限ラレニ付注意ヲ要ス

〇一月十六日午前十一時口栗野區長會ヲ召集シ口栗野住民請負總代人選舉ニ關スル件ヲ附議シ各區ニ於テ選舉ヲ執行シ其結果ヲ來ル二十日迄ニ栗野町役場ニ



粟野町報 第七號

宇都宮市職業紹介所
足利市職業紹介所
足利市本城三丁目(一、五)

○大正十一年四月十一日法律第四十號ヲ以テ農會法改正ニ依リ大正十一年十一月二十六日日本町農會臨時總會ニ於テ決定セル農會令則左ノ如シ
但シ大正十二年一月一日ヨリ施行

第一條 本會ハ農業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第二條 本會ハ栃木縣上都賀郡粟野町農會ト稱ス
第三條 本會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ
一、農業ノ指導獎勵ニ關スル施設
二、農業ニ従事スル者ノ福利増進ニ關スル施設
三、農業ニ關スル研究及調査

代理人ヲ設ケタルトキハ其ノ氏名住所ヲ届出ツヘシ
代理人ハ本會ノ地區内ニ居住スル會員タルコトヲ要ス
本會ハ農會ニ關スル一切ノ事項ニ付代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人ニ對スル通知ニ代フ
第十條 本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得
顧問ハ農業ニ功勞アル者又農業ニ關シ學識經驗アル者ヨリ總代會ニ於テ之ヲ推薦ス
顧問ハ總代會ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得
但シ議決權ヲ有セズ
第十一條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一人
副會長 一人
評議員 七人

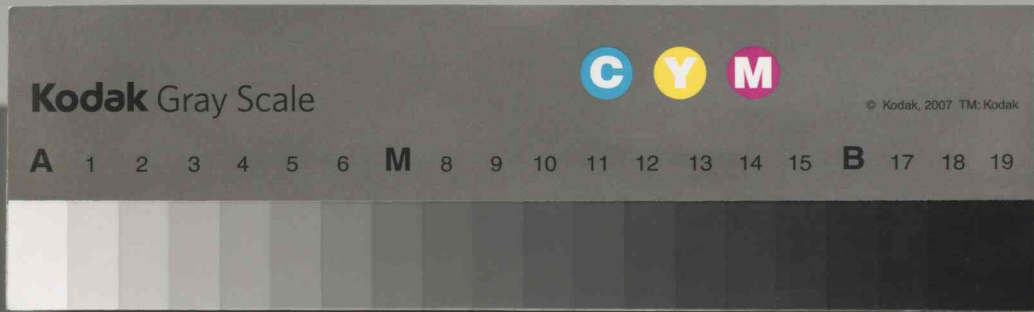
第十二條 役員ハ總代會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選任ス
但シ會長及副會長ハ會員以外ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケズ
役員ノ選任ハ單記投票ニ依リ之ヲ行フ但シ總代會ノ議決ヲ經指名推薦ヲ以テ投票ニ代フルコトヲ得
投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トシ得票相同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 役員ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス
第十四條 總代會ハ正當ノ事由アルトキハ總代會ヲ組織スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得役員ヲ解任スル

四、農業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
五、農業ノ利害ニ關スル意見ノ表示
六、農業ニ關スル事項ニ付行政廳ヘノ建議及諮問ニ對スル答申
七、其他農業ノ改良發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第四條 本會ノ事務所ハ栃木縣上都賀郡粟野町大字口栗野一五六番地ニ置ク
第五條 本會ノ區域内ニ農區ヲ設置ス
農區ニ關スル細則ハ總代會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム
第六條 本會ハ公告ハ左ノ方法ニ依リテ之ヲ行フ
一、粟野町謁示場
二、三月一日ヨリ翌年三月三十一日迄
第七條 本會ノ事業年度ハ三月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス
第八條 本會ハ會員名簿ヲ作成シ之ヲ事務所ニ備フ
會員名簿ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ會員ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ本會ノ會員タル資格ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ亦同シ
會員名簿ノ訂正ヲ要スルトキハ會長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ
關係者ハ本會ノ事務所ニ於テ執務時間内何時ニテモ會員名簿ヲ閲覽ヲ求ムルコトヲ得但シ本會ニ支障アルトキハ之ヲ拒絕スルコトアルヘシ
第九條 本會ノ會員本會ノ地區内ニ居住セザル場合ニ於テハ代理人ヲ設ケタルコトヲ得

コトヲ得役員ヲ解任シタルトキハ同時ニ補闕ノ役員ヲ選任スヘシ
第十五條 役員中議員ヲ生シタルトキハ次ノ總代會ヲ待ツコト能ハサル場合ニ限り臨時總代會ニ於テ補闕ノ役員ヲ選任スヘシ
第十六條 役員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ四箇年トス
但シ再選ヲ妨ケズ
補闕ノ爲選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
第十七條 役員ハ其ノ任期満了シタルトキト雖モ後任者就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス
第十八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス
會長ハ總代會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急遽ヲ要シ總代會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルモノヲ專決處分スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス
第十九條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第二十條 評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ並會務執行及財産ノ狀況ヲ監査ス
會長ハ左ニ掲タル事項ニ付テハ評議員ニ諮問スルヲ要ス
一、總代會ニ提出スヘキ議案ニ關スル事項
二、臨時總代會ノ召集ニ關スル事項

粟野町報 第七號



栗野町報 第七號

三、寄附ノ受諾及拒否ニ關スル事項
四、本會法第三十條第五項ニ依ル異議申立ノ決定ニ關スル事項

第二十一條 役員ハ名譽職トス但シ總代会ノ議決ヲ經テ報酬ヲ給與スルコトヲ得

第二十二條 本會ハ總代会ニ於テ役員中ヨリ上都賀郡本會ノ議員及豫備議員各一人ヲ選任ス

第二十三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

幹事 一 會長 二 副會長 三 書記 四 庶務 五 會計 六 監事 七 評議員 八 職員 九 職員退職シタルトキハ退職給與金ヲ支給ス

第二十四條 職員ハ會長ノ委任免ス

第二十五條 職員ニハ別ニ定ムル所ニ依リ俸給ヲ支給ス

第二十六條 職員退職シタルトキハ退職給與金ヲ支給ス

第二十七條 本會ノ事業ニ關シ特別審議ヲ要スル場合ハ委員會ヲ設クルコトヲ得

委員會ノ選任解任及委員會ニ關スル細則ハ會長之ヲ定ム

第二十八條 本會ニ總代会ヲ置キ總會ニ代フ總代会ハ會長、副會長及總代ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 總代ノ定數ハ二十二トス

第三十條 總代ハ會員中ヨリ之ヲ選舉ス

總代中關員ヲ生シ其ノ關員總代定數ノ三分ノ一ニ至ラタルトキ又ハ本會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關員ヲ選舉ス

第三十一條 會長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調整ス

會長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前十時ヨリ午後四時迄本會ノ事務所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス

選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間經過後五日迄ニ之ヲ會長ニ申立タルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ會長ハ直ニ其ノ決定ヲ爲ス

第三十二條 會長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票日時及選舉ハキ總代數ヲ公告ス

第三十三條 總代ノ選舉ハ會長之ヲ管理ス

會長ハ會中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ設ク

第三十四條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者ニ非ズレ

ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 投票ノ拒否及効力ハ選舉立會人ノ之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉管理者之ヲ決ス

第三十九條 總代ノ選舉ハ有効投票ノ數多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ選舉スヘキ總代數ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數相同レキトキハ年長者ヲ取リ年齡相同シキトキハ選舉管理者抽籤シテ之ヲ定ム

第四十條 選舉管理者ハ選舉録ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ノ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名ス

選舉録ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ効力確定スルニ至ル迄之ヲ保存ス

第四十一條 當選者定リタルトキハ會長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ通知ス

當選者當選ヲ詳セムトスルトキハ當選ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ會長ニ届出ツ

第四十二條 總代ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ會長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第四十三條 第四十一條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキハ會長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ公告ス

第四十四條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選



栗野町報 第七號

舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉全部又ハ一部ヲ無効トス

第四十五條 選舉人選舉又ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第四十三條ノ公告ノ日ヨリ七日以内ニ會長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第四十六條 當選無効ト確定シタルトキハ會長ハ直ニ選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ總代ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十九條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第四十七條 第十三條、第十四條、第十六條及第十七條ノ規定ハ總代ニ付之ヲ準用ス

第四十八條 左ニ掲タル事項ハ總代會ノ議決ヲ經ルモノトス

一、收支豫算
二、經費ノ分賦收入方法
三、事業報告及收支決算
四、借入金
五、基本財産ノ造成、管理及處分其ノ他財産ノ處分ニ關スル事項
六、會則ノ變更
七、役員並上都賀郡農會ノ議員及豫備議員ノ選任及

栗野町報 第七號

八、農會法第十二條第一項、第二十四條第二項及第三十五條ノ同意
九、訴訟及訴訟ニ關スル事項
十、本則施行ニ關スル重要ナル諸細則ヲ制定並ニ變更

第四十九條 總代會ハ通常總代會及臨時總代會ノ二種トス

通常總代會ハ毎年一月又ハ二月ニ之ヲ開ク

臨時總代會ハ會長必要ト認ムルトキ又ハ農會法第二十一條第二項ノ規定ニ係ル請求アリタルトキ之ヲ開ク

第五十條 總代會ヲ召集セントスルトキハ會長ハ少クテ五日前三書面ヲ以テ會議ノ目的タル事項、日時場所ヲ總代會ヲ組織スル者ニ通知スヘシ但シ通知スルコト能ハサル者ニ對シテハ公告ヲ以テ之ニ代フ

第五十一條 總代會ノ議長ハ會長ハ會長事故アルトキハ副會長之ニ當ル會長及副會長共ニ事故アルトキ又ハ農會法第二十一條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者之ヲ互選ス

第五十二條 總代會ノ議事ハ法令及本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外總代會ヲ組織スル者三分ノ一以上出席シ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可同數ナラズトキハ議長ハ決スル所ニ依ル

但シ同一事件ニシテ再召集ヲナシタルトキハ此ノ限

附ヲ受ケタルトキハ之ヲ基本財産ニ編入ス

基本財産ハ總代會ニ於テ之ヲメタル方法ニ依リ之ヲ造成

第六十三條 會長ハ主任ヲ之メテ會務ヲ處理セシム

第六十四條 會長ニハ左ノ帳簿ヲ備フ

一、會員名簿
二、財產臺帳
三、出納簿
四、豫算差引簿
五、經費徵收原簿

第六十五條 本會ノ出納閉鎖期ハ翌年度五月三十一日トス

第六十六條 剩餘金ハ翌年度ニ繰越シ收入豫算ニ編入ス

第六十七條 庶務及會計ニ關スル細則ハ會長之ヲ之ム

第六十八條 會則ノ變更ハ總代會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議定ス

第六十九條 解散ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ス

本會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ清算人トス

本則ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ會則ハ之ヲ廢止ス

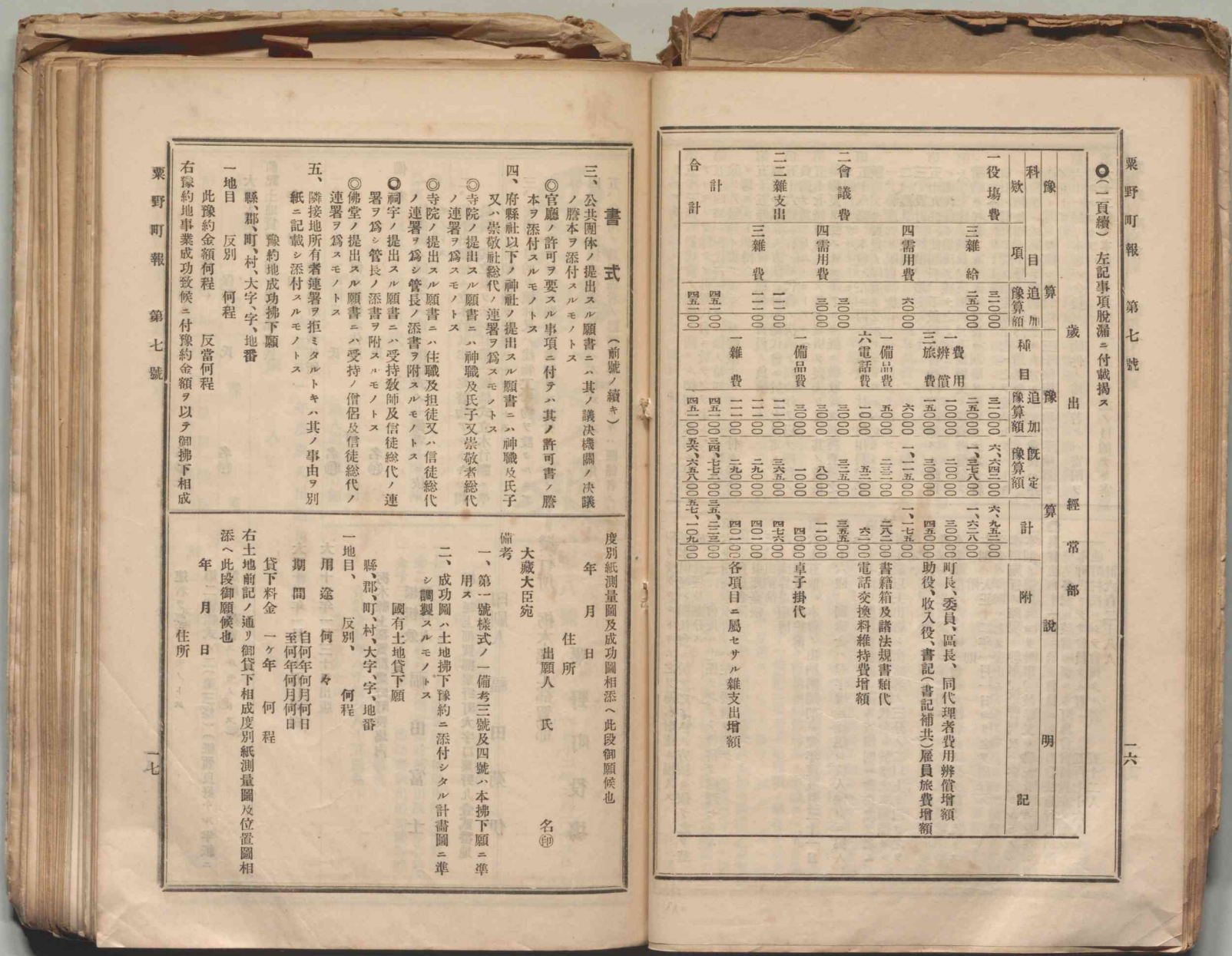
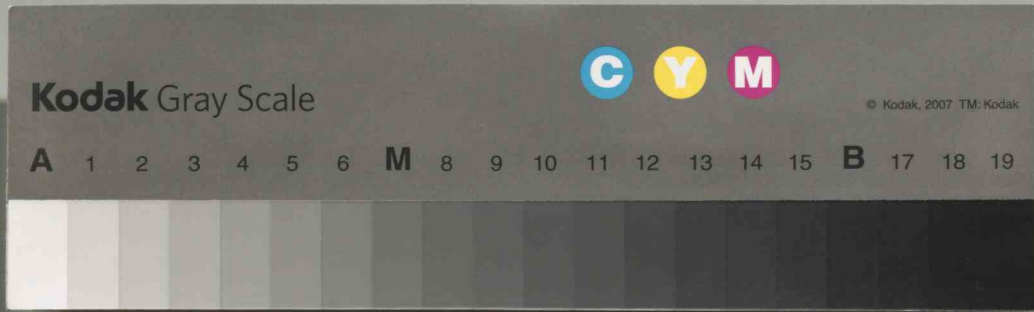
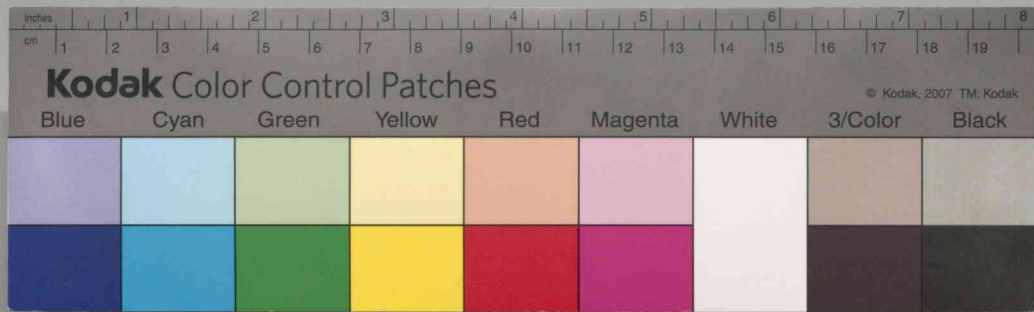
本則施行ノ際現ニ幹事、技術員、又ハ書記タルモノハ本則ノ規則ニヨリ幹事、技手又ハ書記タルモノトス

◎農會法第十一條ニ依ル會員ニシテ農會法施行規則第一條ノ各號ニ該當セザル本町農會會員數左ノ如シ

一 本町民ニシテ會員タル者 五百七十六人
二 他町民ニシテ會員タル者 五百二十八人
計六百二十八人

栗野町報 第七號

一五



栗野町報 第七號

書式 (前號ノ續キ)

三、公共団体ノ提出スル願書ニハ其ノ議決機關ノ決議ノ際本ヲ添付スルモノトス

○官廳ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ許可書ノ原本ヲ添付スルモノトス

四、府縣社以下ノ神社ノ提出スル願書ニハ神職及氏子又ハ崇敬社總代ノ連署ヲ爲スモノトス

○寺院ノ提出スル願書ニハ神職及氏子又ハ崇敬社總代ノ連署ヲ爲スモノトス

○寺院ノ提出スル願書ニハ住職及担徒又ハ信徒總代ノ連署ヲ爲シ管長ノ添書ヲ附スルモノトス

○祠宇ノ提出スル願書ニハ受持教師及信徒總代ノ連署ヲ爲シ管長ノ添書ヲ附スルモノトス

○佛堂ノ提出スル願書ニハ受持ノ僧侶及信徒總代ノ連署ヲ爲スモノトス

五、隣接地所有者連署ヲ拒ミタルトキハ其ノ事由ヲ別紙ニ記載シ添付スルモノトス

豫約地成功拂下願

縣、郡、町、村、大字、字、地番

一、地目 反別 何程

此豫約金額何程 反當何程

右豫約地事業成功致候ニ付豫約金額ヲ以テ御拂下相成

度別紙測量圖及成功圖相添へ此段御願候也

年 月 日 住所 出願人 氏 名印

大藏大臣宛

備考

一、第一號様式ノ一備考三號及四號ハ本拂下願ニ準用ス

二、成功圖ハ土地拂下豫約ニ添付シタル計畫圖ニ準シ調製スルモノトス

國有土地貸下願

縣、郡、町、村、大字、字、地番

一、地目 反別 何程

大用用途 何一各

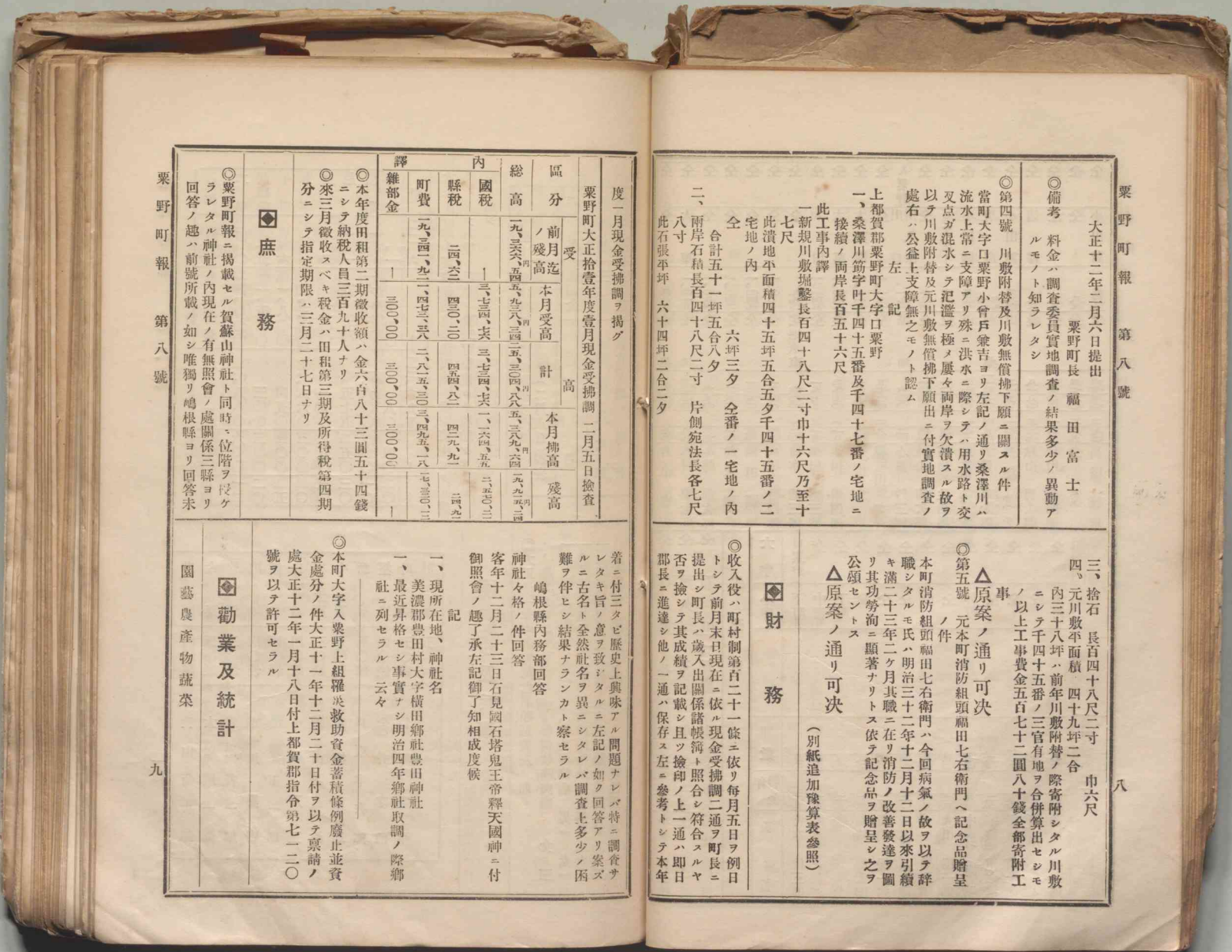
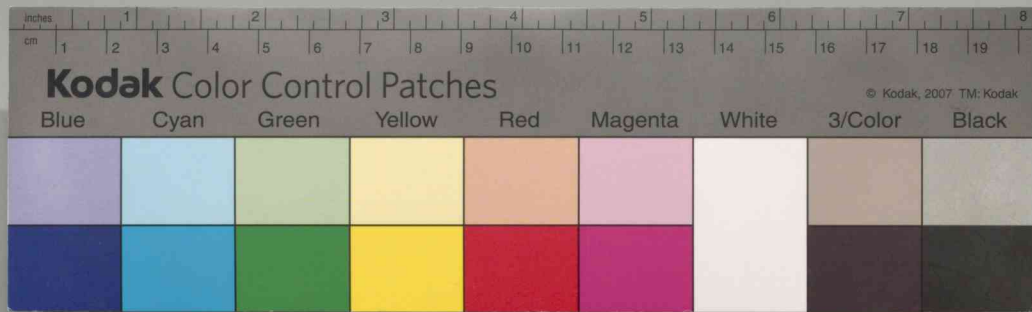
期 間 自何年何月何日 至何年何月何日

貸下料金 一ヶ年 何程

右土地前記ノ通り御貸下相成度別紙測量圖及位置圖相添へ此段御願候也

年 月 日 住所

科 目	算 出		算 入		附 記
	追 加	既 定	追 加	既 定	
一役場費	三、一〇〇〇	三、一〇〇〇	六、九〇〇	六、九〇〇	
二 雜 給	二、五〇〇	二、五〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	
三 雜 費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
四 需用費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	一、一五〇	一、一五〇	町長、委員、區長、同代理者費用辦償増額
五 備品費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	助役、收入役、書記(書記補共)雇員旅費増額
六 電話費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	書籍箱及諸法規書類代
七 旅費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	電話交換料維持費増額
八 備品費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	車子掛代
九 雜 費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	各項目ニ屬セザル雜支出増額
合 計	四、五〇〇	四、五〇〇	四、一〇〇	四、一〇〇	



度一月現金受拂調ヲ掲グ

粟野町大正拾壹年度壹月現金受拂調二月五日検査

區分	受		計	本月拂高	残高
	前月迄	本月受高			
總高	一九、三、五、五、九、三、三、五、〇、四、八、五、九、九、〇、四	一、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三	二〇、七、一、二、一、九、三、〇、七、一、二、一、九、三、〇、七	一九、三、五、五、九、三、三、五、〇、四、八、五、九、九、〇、四	一、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三
國稅	一、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三	一、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三	二、七、四、九、三、七、四、九、三、七、四、九、三、七、四、九、三	一、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三	一、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三、七、四、六、三
町費	一、四、〇、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇	一、四、〇、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇	二、八、〇、〇、二、〇、二、八、〇、〇、二、〇、二、八、〇、〇、二、〇	一、四、〇、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇	一、四、〇、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇、一、〇
雜部金	一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇	一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇	二、〇〇、〇、〇、二、〇〇、〇、〇、二、〇〇、〇、〇、二、〇〇、〇、〇、二、〇〇、〇、〇	一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇	一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇、一、〇〇、〇、〇

◎本年度田租第二期徴収額ハ金六百八十三圓五十四錢ニシテ納税人員三百九十八人ナリ

◎來三月徴收スベキ税金ハ田租第三期及所得稅第四期分ニシテ指定期限ハ三月二十七日ナリ

◎粟野町報ニ掲載セル賀蘇山神社ト同時ニ位階ヲ授ケラレタル神社ノ内現在ノ有無照會ノ處關係三縣ヨリ回答ノ趣ハ前號所載ノ如シ唯獨リ嶋根縣ヨリ回答未

◎勸業及統計

園藝農産物蔬菜

◎本町大字入粟野上組罹災救助資金蓄積條例廢止並資金處分ノ件大正十一年十二月二十日付ヲ以テ稟請ノ處大正十二年一月十八日付上郡賀郡指令第七二〇號ヲ以テ許可セラリ

大正十二年二月六日提出

粟野町長 福田 富士

◎備考 料金ハ調査委員實地調査ノ結果多少ノ異動アルモノト知ラレタシ

◎第四號 川敷附替及川敷無償拂下願ニ關スル件

當町大字口栗野小會戸兼吉ヨリ左記ノ通り桑澤川ハ流水上常ニ支障アリ殊ニ洪水ニ際シテハ用水路ト交又点ガ混水シテ氾濫ヲ極メ屢々兩岸ヲ欠潰スル故ヲ以テ川敷附替及元川敷無償拂下願出ニ付實地調査ノ處右ハ公益上支障無之モノト認ム

左記

上都賀郡粟野町大字口栗野

一、桑澤川筋字叶千四十五番及千四十七番ノ宅地ニ接續ノ兩岸長百五十六尺

此工事内譯

一新規川敷堀鑿長百四十八尺二寸巾十六尺乃至十七尺

此潰地平面積四十五坪五合五夕千四十五番ノ宅地ノ内

六坪三夕 全番ノ一宅地ノ内

合計五十一坪五合八夕

二、兩岸石積長百四十八尺二寸 片側宛法長各七尺八寸

此石張平坪 六十四坪二合二夕

三、拾石 長百四十八尺二寸 巾六尺

四、元川敷平面積 四十九坪二合

内三十八坪ハ前年川敷附替ノ際寄附シタル川敷ニシテ千四十五番ノ三官有地ヲ合併算出セシモノ以上工事費金五百七十二圓八十錢全部寄附工

事

△原案ノ通り可決

◎第五號 元本町消防組頭福田七右衛門へ記念品贈呈ノ件

本町消防組頭福田七右衛門ハ今回病氣ノ故ヲ以テ辭職シタルモ氏ハ明治三十二年十二月十二日以來引續キ滿二十三年二月其職ニ在リ消防ノ改善發達ヲ圖リ其功勞洵ニ顯著ナリトス依テ記念品ヲ贈呈シ之ヲ公頌セントス

△原案ノ通り可決

(別紙追加豫算表參照)

◎收入役ハ町村制第百二十一條ニ依リ毎月五日ヲ例日トシテ前月末日現在ニ依リ現金受拂調ニ符合町長ニ提出シ町長ハ歲入出關係諸帳簿ト照合シ符合スルヤ否ヲ檢シテ其成績ヲ記載シ且ツ檢印ノ上一通ハ即日郡長ニ進達シ他ノ一通ハ保存ス左ニ參考トシテ本年

着ニ付三タビ歴史上興味アル問題ナレバ特ニ調査スレタキ旨ノ意ヲ致シタルニ左記ノ如ク回答アリ案ズルニ古名ト全然社名ヲ異ニシタルバ調査上多少ノ困難ヲ伴ヒシ結果ナランカト察セラリ

嶋根縣内務部回答

神社々格ノ件回答

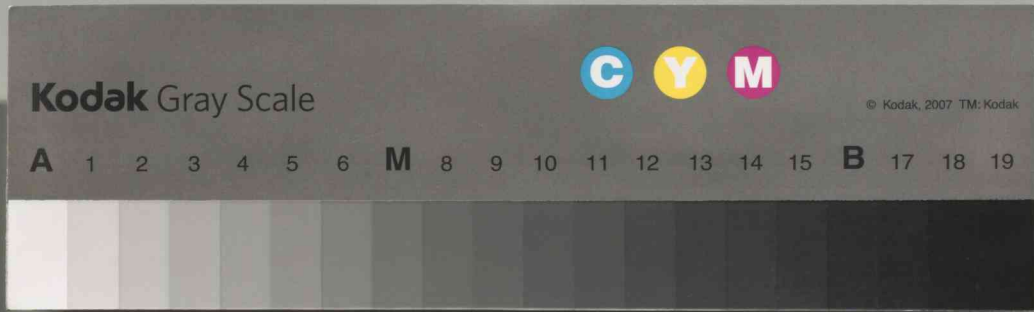
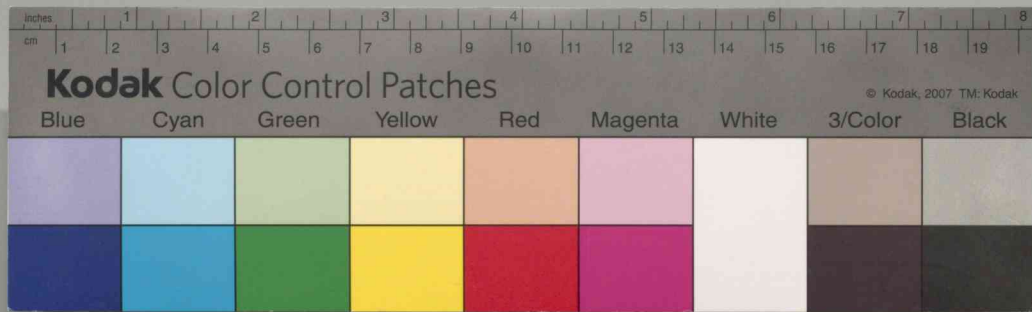
客年十二月二十三日石見國石塔鬼王帝釋天國神ニ付御照會ノ趣了承左記御了知相成度候

記

一、現所在地、神社名

美濃郡豊田村大字横田郷社豊田神社

一、最近昇格セシ事實ナシ明治四年郷社取調ノ際郷社ニ列セラル 云々



栗野町報 第八號

一、原因不明男七女一〇 計男四〇 女四一

◎大正十二年本部徴兵検査日割左記ノ通り定メラレ候
 條受檢者ハ遲滞ナク當該検査場ニ出頭セラルベシ
 受檢場 栗野第一尋常高等小學校
 検査施行日 四月三十日 眞名子村、南摩村、
 清洲村、栗野町
 五月一日 永野村、柏尾村、西方村

◆衛生

◎本縣下ニ於テ流行性感胃發生蔓延ノ兆有ルニ依リ豫
 防自衛ヲ要ス

一、飛沫傳染ノ防止
 イ、咳、クサミ、ノ際ハ、ハンカチ、手拭、紙片
 等ニテ口鼻ヲ覆フコト
 ロ、對談ノ際ハナルヘク三四尺ノ間隔ヲ保ツコト
 ハ、飛沫傳染ノ危険ナルコトヲ知ルコト
 ニ、マスクハ患者ニ接スルトキ使用スルコト
 ホ、群集ノ中ニ入ル時使用スルコト
 ヘ、患者又ハ罹感ノ疑アルモノハ人ニ接スルトキ
 又ハ外出ノ際使用スルコト

栗野町報 第八號

二、患者ノ隔離
 イ、患者ハナルヘク別室ニ隔離シ別室ナキトキハ
 屏風衝立ノ類ヲ以テ健康者ト隔ツルコト

三、消毒
 イ、唾痰ハ唾壺布片紙又ハ下水便池等ノ外ニ略出
 サルコト
 ロ、唾痰鼻汁ニシテ汚染セル布片、紙片及唾壺内
 ノ唾痰ハ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト
 ハ、居室ノ疊及器具ハ濕布ヲ以テ拭淨シ室内ハ日
 光ノ射入空氣ノ交換ヲ爲スコト
 ニ、寝具ハ屢日光消毒ヲ行フコト
 ホ、食器ハ専用トシ使用ノ都度熱湯消毒ヲ行フ事
 ヘ、旅店、下宿屋、飲食店、料理店等ニ於テ使用
 スル物件ニ付テハ前記ニ準シ處置スルコト

四、豫防注射
 イ、流行ノ兆アルトキハ速ニ豫防注射ヲ受クルヲ
 可トス

五、一般衛生
 イ、精神ヲ爽快ニシ適度ノ運動ヲナスコト
 ロ、徒歩ヲ奨勵スルコト
 ハ、老幼虛弱者ハナルベク早朝深夜ノ外出ヲ避ケ
 湯冷寝冷等ニ注意スルコト
 ニ、頭痛發熱等身体ニ異狀アルトキハ速ニ醫師ノ
 診察ヲ受クルコト

栗野町報 第八號

大正十一年度麥奴豫防補助金交付表
 (二月八日)製表

種別	反作別	收量	價額	一反歩
大根	四〇	二四、〇〇〇	二、八八〇	〇、六〇〇
胡蘿蔔	一、五〇〇	三〇〇	三〇〇	〇、二〇〇
牛房	一、八〇〇	四、五〇〇	六、六〇〇	〇、三〇〇
青芋	一、三〇〇	三〇〇	四、五〇〇	〇、二五〇
薑	一、三〇〇	五〇〇	一、五〇〇	〇、二五〇
葱	二、一〇〇	五、二五〇	一、五七五	〇、二五〇
漬菜	四、〇〇〇	一、六〇〇	四、〇〇〇	〇、四〇〇
蕃椒	二、二〇〇	四〇〇	一、六〇〇	〇、二〇〇
計	二二、六〇〇	一三、六九五	四〇、二〇〇	一、二〇〇

大正十一年中麥奴豫防湯湯法實施ニ際シ使用シタル薪
 代トシテ石數ニ計算シ栗野町農會ヨリ補助シタルモノ
 左ノ如シ

坪名	補助金	氏名
池之端	三〇錢	安生 豊次郎
澤	三〇錢	牧 嶋 織吉

栗野町報 第八號

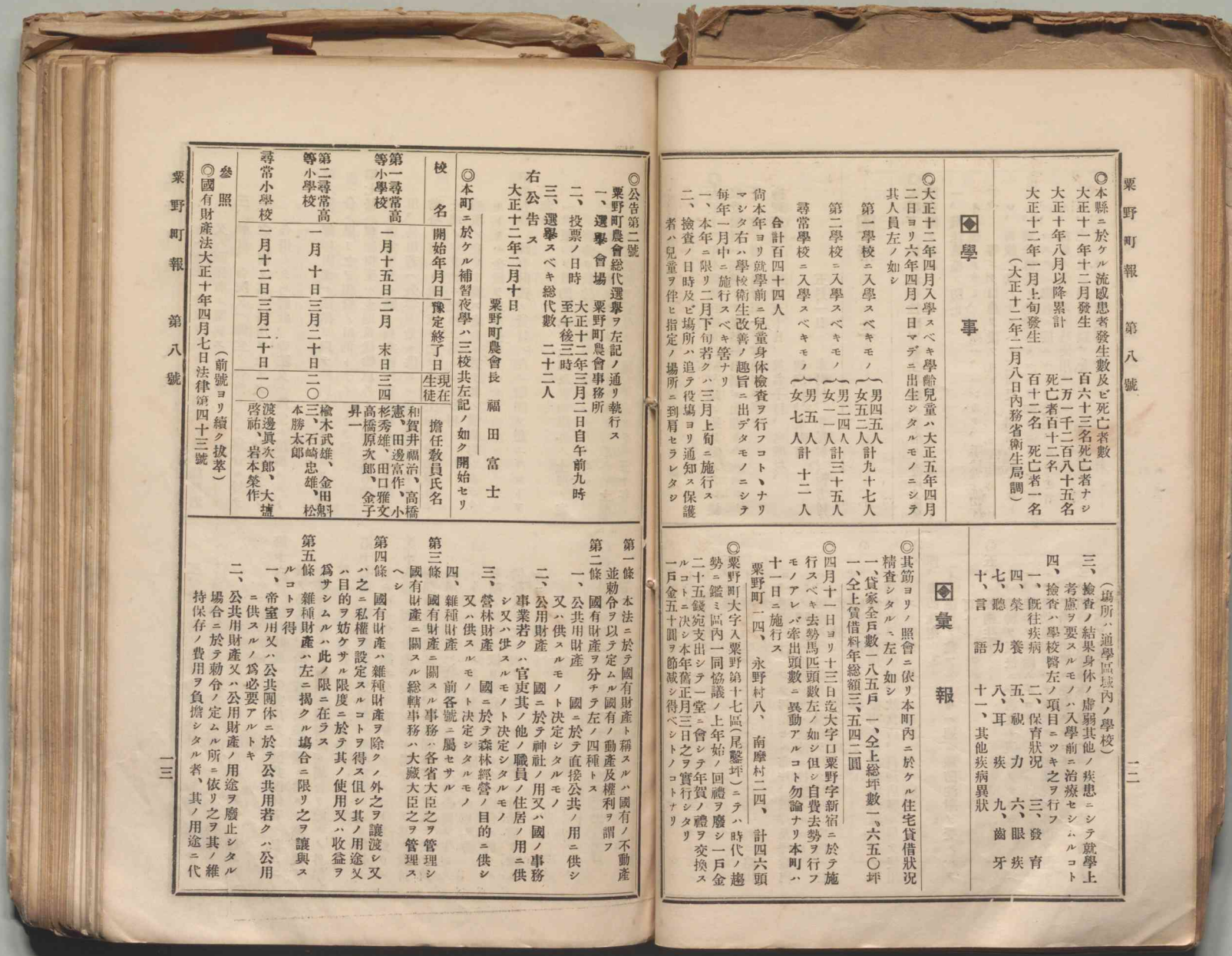
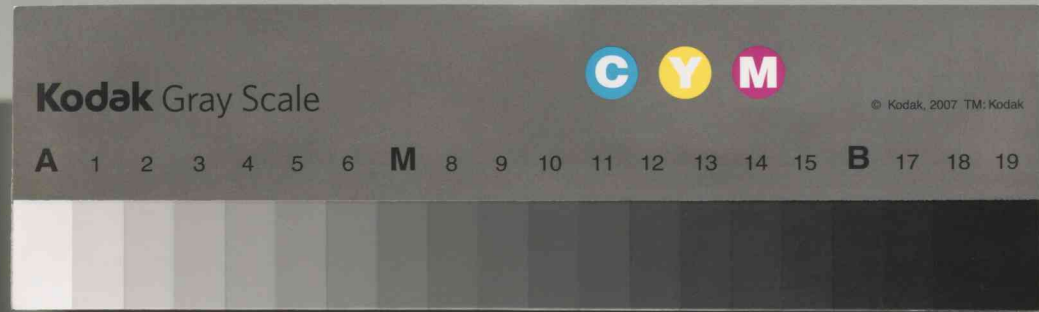
◎大正十一年中本町死亡者類別表左ノ如シ

◆戸籍及兵事

計	叶	筌	新	中	梅	日	板	追	管	大	出
金	五	四	五	五	三	四	四	四	三	三	四
五、〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

竹	金	戸	青	神	小	湯	市	岩	大	秋
澤	井	坂	柳	山	嶋	川	澤	出	塚	山
宇	才	半	幸	直	萬	三	吉	一	一	次
平	治	郎	助	治	郎	郎	郎	郎	郎	郎

一、傳染性病 男一 女三
 一、皮膚及筋肉病 女一 一、骨及關節病 男一 女一
 一、血行器病 男三 女三 一、神經系及五管病 男五 女九
 一、呼吸器病 男九 女四 一、消化器病 男八 女五
 一、泌尿及生殖器病 男四 女四 一、外傷性變死 男二 女一



栗野町報 第八號

栗野町報 第八號

◎本縣ニ於ケル流感患者發生數及ビ死亡者數
 大正十一年十二月發生 百六十三名死亡者ナシ
 大正十年八月以降累計 一萬一千二百八十五名
 死亡者百二十名
 大正十二年一月上旬發生 百二十名 死亡者一名
 (大正十二年二月八日內務省衛生局調)

學事

◎大正十二年四月入學スベキ學齡兒童ハ大正五年四月二日ヨリ六年四月一日マデニ出生シタルモノニシテ其人員左ノ如シ

第一學校ニ入學スベキモノ 男四五人計九十七人
 第二學校ニ入學スベキモノ 男二四人 女一人計三十五人
 尋常學校ニ入學スベキモノ 男五人計十二人
 合計百四十四人

尙本年ヨリ就學前ニ兒童身體検査ヲ行フコト、ナリマシタ右ハ學校衛生改善ノ趣旨ニ出デタモノニシテ毎年一月中ニ施行スベキ筈ナリ

一、本年ニ限リ二月下旬若クハ三月月上旬ニ施行ス
 二、検査ノ日時及ビ場所ハ追テ役場ヨリ通知ス保護者ハ兒童ヲ伴ヒ指定ノ場所ニ到肩セラレタシ

彙報

◎其節ヨリ照會ニ依リ本町内ニ於ケル住宅貸借狀況精査シタルニ左ノ如シ

一、貸家全戸數一八五戸、全上總坪數一、六五〇坪
 二、全上賃借料年總額三、五四二圓

◎四月十一日ヨリ十三日迄大字口栗野字新宿ニ於テ施行スベキ去勢馬匹頭數左ノ如シ但シ自費去勢ヲ行フモノアレバ牽出頭數ニ異動アルコト勿論ナリ本町ハ十一月ニ施行ス

栗野町一四、永野村八、南摩村二四、計四六頭

◎栗野町大字入栗野第十七區(尾鷲坪)ニテハ時代ノ趨勢ニ鑑ミ區内一同協議ノ上年始ノ回禮ヲ廢シ一戸金二十五錢宛支出シテ一年賀シテ實行シタルコトニ決シ本年舊正月三日之ヲ實行シタル一戸金五十圓ヲ節減シ得ベシトノコトナリ

◎公告第二號

栗野町農會總代選舉ヲ左記ノ通り執行ス

一、選舉會場 栗野町農會事務所
 二、投票ノ日時 至午後三時 大正十二年三月二日自午前九時
 三、選舉スベキ總代數 二十二名
 右公告ス

大正十二年二月十日 栗野町農會長 福田 富士

校名	開始年月日	豫定終了日	現在生徒	擔任教員氏名
第一尋常高等小學校	一月十五日	二月 末日	三四	和賀井福治、高橋憲、田邊富作、高橋原次郎、金子雅文
第二尋常高等小學校	一月十日	三月二十日	二〇	榎木武雄、金田貞、本勝太郎、石崎忠雄、松本勝太郎
尋常小學校	一月十二日	三月二十日	一〇	渡邊真次郎、大瀧啓祐、岩本榮作

◎本町ニ於ケル補習夜學ハ三校共左記ノ如ク開始セリ

第一條 本法ニ於テ國有財産ヲ稱スルハ國有ノ不動産並勸令ヲ以テ定ムル國有ノ不動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分テ左ノ四種トス

一、公用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二、公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務事業若クハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三、營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四、雜種財産 前各號ニ屬セザル

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各該大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總務事務ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ掲ケル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一、帝室用又ハ公共團體ニ於テ公用若クハ公用ニ供スルノ爲必要アルトキ

二、公用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勸令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代

一三



栗野町報 第八號

ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ縁故者
又ハ關係者ニ讓與スルトキ
三、神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ
之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ
合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルト
キ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定メ爲シタル場
合ニ限リ之ヲ出資ノ目的トナスコトヲ得
第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定着物ニ
限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共
用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ
土地ノ定着物ト交換ヲ爲スコトヲ得
前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサ
ルトキハ金銭ヲ以テ補足スベシ

第十條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ
得ス
一、植樹ノ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定
著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
二、前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地
ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

◎國有財産法施行令 勅令第十五號 大正十二年五月
第二章 賣拂讓與及交換

三、建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ
十年貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユル
コトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ
於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ア
ル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無
償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎定期ニ之ヲ納付セ
シムベシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付
期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公
共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタ
ルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ
借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ム
ルコトヲ得

以上

第八條 公共團體ニ於テ維持保存費用ヲ負擔シタル公
共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其
ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル
場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間
カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以
テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル
期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者ハ其ノ相續人其ノ他
ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニヨリ國有財産ヲ貸付セントス
ルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明
ニシタル調査ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第
二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ
又同シ

第二十二條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ理立
若ハ干拓事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場
合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シ
タル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ
一、土地又ハ水面ノ所在及面積
二、事業ノ目的
三、事業施行ノ方法及順序
四、成功ノ定期間
五、收支豫算
六、計畫圖

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ理立
若ハ干拓事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場
合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シ
タル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ
一、土地又ハ水面ノ所在及面積
二、事業ノ目的
三、事業施行ノ方法及順序
四、成功ノ定期間
五、收支豫算
六、計畫圖

事業成功ノ後公共用ニ供スヘキ部分アルトキハ
其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依
リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムト
スルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定
シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約
ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二
項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルト
キハ地方長官ヲ經由シ主務大臣其ノ財産ヲ管理ス
ル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財
産ニ付之ヲ準用ス

大正十二年二月二十日印刷
大正十二年二月二十五日出版

編輯兼 一福 田 富 士
發行人 栃木縣上都賀郡栗野町役場内
栃木縣上都賀郡栗野町大字口栗野九番貳
印刷人 福 田 菊 伊

發行所 栃木縣上都賀郡
栗野町 役場

一五





粟野町報

第拾號

大正十二年四月二十五日

(日曜水)

會 議

○四月二十二日

◎第一號 本町農會補助金下附ノ件
部内産業ノ發達開發ヲ計リ町民ノ利益ヲ増進センガ
爲メ大正十二年度町費ヨリ本町農會へ金五百圓ヲ補
助セントスルニ在リ

△原案ノ通り可決

◎第二號 大正十二年度本町歳入出豫算追加ノ件
大正十二年度本町歳入出追加豫算
歳入
一金三千八百二十九圓也 歳入既定豫算額

粟野町報 第十號 歳入 經常部

一金千三百八十五圓也 歳入追加豫算額
歳入合計金四万三千十四圓也

歳出

一金三万二千二百五十五圓也 經常部既定豫算額
一金八百八十五圓也 經常部追加豫算額

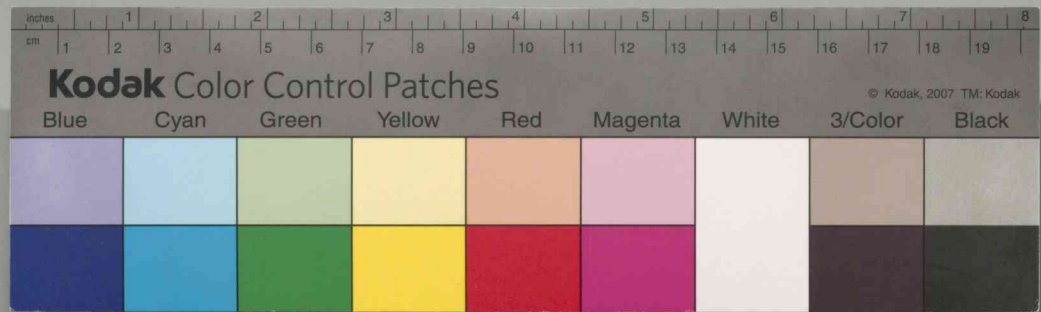
經常部計金三万三千百四十圓也

一金六千六百七十四圓也 臨時部既定豫算額
一金五百圓也 臨時部追加豫算額

臨時部計金七千七百七十四圓也

歳出合計金四万三千十四圓也

歳入差出引殘金ナシ



栗野町報 第十號

科 目	豫 算		種 目	豫 算		計	附 明
	追 加	額		既 定	追 加		
六配當金		八八五〇〇	一當郡金配	八八五〇〇	八八五〇〇	九五五〇〇	附
八繰越金		五〇〇〇〇	一前年度繰越金	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	九五五〇〇	附
計		一、三六五〇〇	一繰越金	二、四七〇〇〇	二、四七〇〇〇	二、六四七〇〇	附
六配當金		八八五〇〇	一當郡金配	八八五〇〇	八八五〇〇	九五五〇〇	附
八繰越金		五〇〇〇〇	一前年度繰越金	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	九五五〇〇	附
計		一、三六五〇〇	一繰越金	二、四七〇〇〇	二、四七〇〇〇	二、六四七〇〇	附
一六積立金		八八五〇〇	一積立金	八八五〇〇	八八五〇〇	九五五〇〇	附
二積立金		八八五〇〇	一積立金	八八五〇〇	八八五〇〇	九五五〇〇	附
計		一、七七〇〇〇	一積立金	一、七七〇〇〇	一、七七〇〇〇	一、九一〇〇〇	附
計		一、三六五〇〇	一積立金	一、七七〇〇〇	一、七七〇〇〇	一、九一〇〇〇	附

大正十二年四月二十二日提出

栗野町長代理助役 安 發 清 作

△原案ノ通り可決

栗野町報 第十號



